

麻布未来写真館

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成 28 年度 活動報告
港区麻布地区総合支所

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成28年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成29年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに	01
I. 分科会活動の概要	02
「麻布未来写真館」とは	02
パネル展の開催	03
II. 分科会メンバー作成パネルの紹介	05
パネルの作成	05
III. これまでの活動を振り返って	22
メンバーのことば	22
IV. 参考資料	27

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成29年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

I 分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 28 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、ワーキングやまち歩き(撮影)等を実施し、2 会期に分けてパネル展を開催しました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 29 年 3 月 1 日現在）

天羽 大器、荒澤 経子、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、
櫻井 綾、鈴木 順二、田岡 恵美、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子、吉川 一郎

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでに引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から8年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方々から、写真等のご提供、多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を2期にわたり、延べ4会場で開催しました。

また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所2階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行いました。

パネル展スケジュール

◆第1期パネル展

- 会場①：フジフィルム スクエア ミニギャラリー
平成29年2月3日(金)～2月16日(木) 10:00～19:00
- 会場②：港区麻布地区総合支所1階ロビー
平成29年2月15日(水)～3月1日(水) 8:30～17:00

◆第2期パネル展

- 会場①：東洋英和女学院 本部・大学院棟1階 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー
平成29年2月27日(月)～3月24日(金) 9:00～19:00
- 会場②：麻布子ども中高生プラザ等複合施設1階 展示・読書コーナー
平成29年3月3日(金)～3月29日(水) 9:00～20:00



第1期パネル展ポスター



第2期パネル展ポスター

会場提供等、ご協力いただいた方々からのメッセージ

島田 知明(フジフィルム スクエア 館長)

フジフィルム スクエアでの「麻布未来写真館」パネル展は、今年も多くのお客様にご来館いただき楽しんでいただきました。地元に近いご来館者様は、ご自宅の近所や、古くからご存知の場所を懐かしんでおられ、若い方たちは、ご自分たちが今知っている場所がかつてこんな場所だったのかと驚きの声をあげられるなど、それぞれの世代が時代の記憶を語りあっていただく場となりました。大切な記録としての役割にとどまらず、時を超えたコミュニケーションの媒体としての写真の役割を実感致しました。

「麻布未来写真館」の事業が、社会的・文化的に意義の高い事業であると改めて実感致します。これからも麻布の街並みは、日々変化していきますが、街の歴史はそのまま人の生活の歴史であることを思うと、麻布に住まわれる方、関わる皆さんの気持ちに寄り添った本事業に、弊館も微力ながらもご協力させていただきたいと存じます。

酒井 ふみよ(東洋英和女学院史料室)

昨年8月に、東洋英和女学院は地域社会および学術研究の発展に寄与するため、港区と連携協定を結びました。麻布未来写真館のパネル展を例年本学院で開催することはまさにその目的ののっとって行われてきたことでしたので、方向性がなお一層強められたと感じます。

今回は地域情報紙「ザ・AZABU」バックナンバーの関連記事もプリントして用意され、複合的な展示でした。3週間の会期中に約100名の閲覧者がありました。地域の方がたが「麻布未来写真館」のために学院を訪問され、その折に「学院資料・村岡花子文庫」展示コーナーも見学していただけることは願ってもない幸いです。

今後も学院がこの地に歴史を重ねて来られたことを感謝し、協力していきたいと願っています。

パネル展示にあたってのメッセージ

平成29年2月27日(月)からの第2期パネル展にあたり、会場提供等のご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で7回目の参加となりました。長年にわたりこの地で女子教育に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様方の温かいご理解、ご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・マーサ・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために明治17年(1884年)に設立された学校です。今年創立133周年を迎えます。

幸いなことに、学院は関東大震災の時にも太平洋戦争の空襲時にも被災を免れて、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

港区と学院は地域振興や国際交流等の分野で連携して取り組んでいくため、平成28年8月に連携協定を締結しました。このような交流の中で、今年もパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、地域の皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

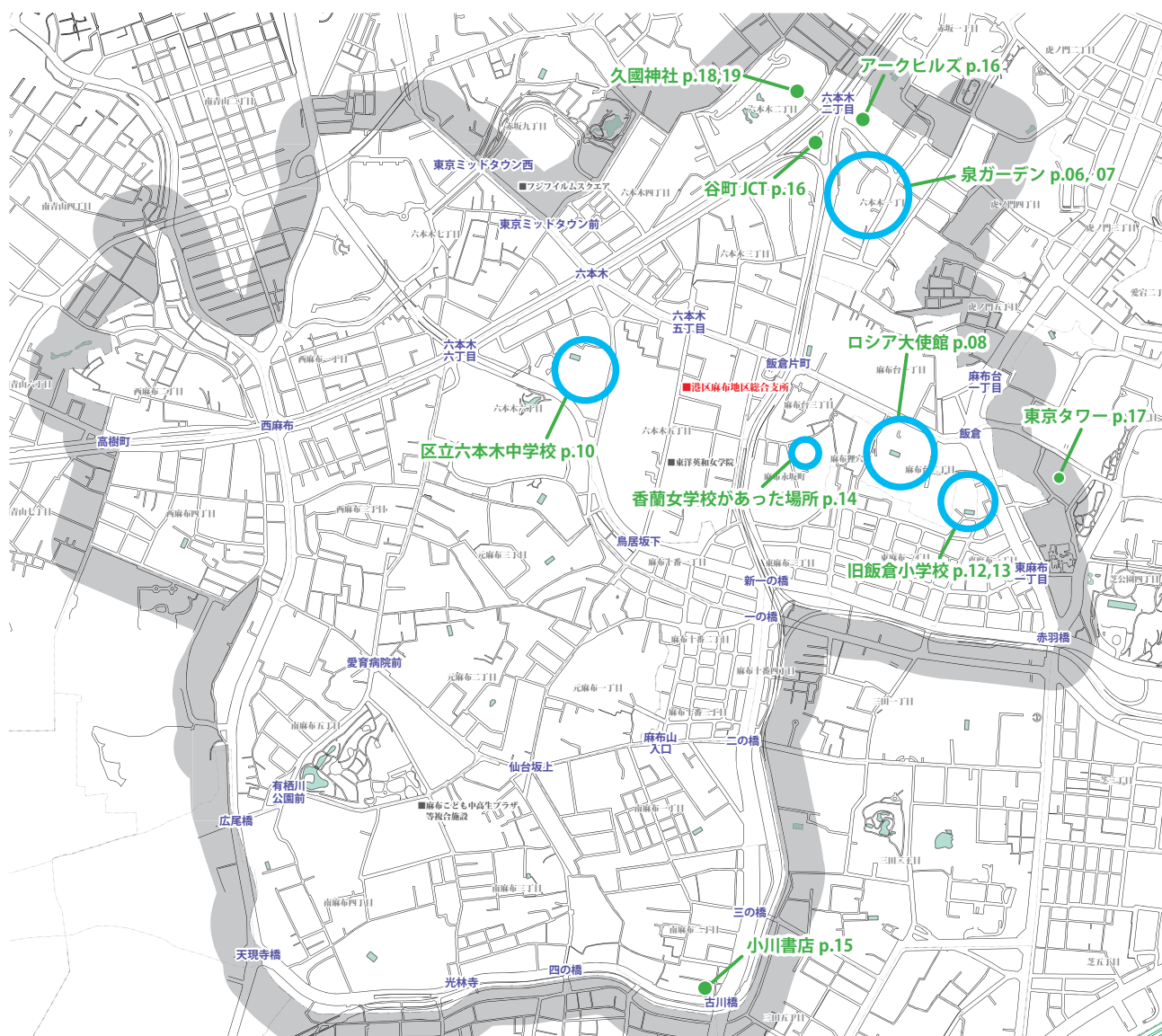
平成29年2月吉日
東洋英和女学院 理事長 大宮 溥
院長 深町 正信

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き(撮影)」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「Ⅱ. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



<写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有(車等)の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。

住友家麻布別邸から泉ガーデンへ—今に生きる庭園の緑①

六本木一丁目の再開発により、平成14年(2002年)に誕生した新しいまち、泉ガーデン。

地下鉄南北線六本木一丁目駅に直結する高層オフィスのビルにぎわいを後に、斜面をのぼり、尾根部にあがると、そこには閑静な緑地が広がっている。

日々、人びとが往来するこの緑地は、かつて住友家麻布別邸が所在した場所である。



住友家麻布別邸正面玄関



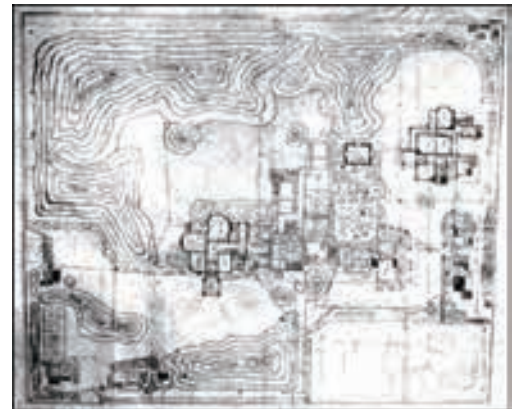
住友家麻布別邸応接室

緑地やスペイン大使館などが面する通称「尾根道」一帯は、江戸期には武家屋敷があり、明治以降近年まで緑豊かで閑静な大邸宅街であった。

住友家第15代当主・住友吉左衛門友純(男爵・住友合資会社社長、号春翠／以下、春翠)がこの地、麻布市兵衛町(当時)に別邸を建てたのは大正6年(1917年)のことで、同年5月には、当時の総理大臣・寺内正毅はじめ財界人を招き、園遊会を開いたとの記録が残されている。

春翠は当主として住友家を近代財閥へと導く一方、公私にわたり文化活動に力を注ぎ、多彩な美術品を蒐集。邸内には春翠の美意識にかなったさまざまな美術品が飾られていたという。

大正12年(1923年)9月に起きた関東大震災を乗り越えた別邸は、大正15年(1926年)3月、春翠がこの世を去ったのちも、長らく台地にたたずみ続けた。



住友家麻布別邸平面図



資料3『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』
東京通信局「東京市麻布区図」から編成[大正13年(1924年)]



資料8『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』
植野録夫「港区詳細図」から編成[昭和22年(1947年)]



←泉ガーデン

参考文献：『日本の建築 [明治大正昭和] 5 商都のデザイン』(三省堂)、『明治・大正の邸宅 清水組作成彩色図の世界』(柏書房)、
『没後50年 板谷波山展』(毎日新聞社)、
『住友春翠—美の夢は終わらない』(公益財団法人泉屋博物館)
このページに掲載されている古い写真と中段平面図について、『建築工藝叢誌』より転載

住友家麻布別邸から泉ガーデンへー今に生きる庭園の緑②



再開発に伴い取り壊される旧住友会館



住友麻布ハイツアパート(写真右側)



昭和 42 年(1967 年)：
住友麻布ハイツアパート
(写真左側。手前は建設中の有明 JCT)



平成 24 年(2012 年)：尾根部に広がる泉ガーデンの緑地

その後、太平洋戦争の戦火をもくぐりぬけた麻布別邸は、昭和 20 年(1945 年)、空襲により建物の一部が焼失。昭和 40 年(1965 年)には、跡地に迎賓施設として旧住友会館が建てられ、同会館に隣接する形で住友麻布ハイツアパートが竣工。旧住友会館、住友麻布ハイツアパートは、昭和から平成にかけての再開発に伴い取り壊された。

現在、尾根部に広がる緑地は、再開発に際し、住友家麻布別邸から旧住友会館へと受け継がれてきた庭園の緑を保全活用したものである。

閑静な緑地の一角には、平成 14 年(2002 年)より住友家が蒐集した美術品を保存、展示する京都の美術館、泉屋博物館の分館がたたずんでいる。



平成 28 年(2016 年)：
泉屋博物館分館



平成 29 年(2017 年)：尾根道と緑地の木々(写真中央)
東京倶楽部の手前から霊南坂方面に向かって撮影



平成 18 年(2006 年)：
尾根道と緑地の木々(写真右側)



昭和 57 年(1982 年)：
尾根道と旧住友会館の庭園の
木々(写真右上)

参考サイト：「開かれたまちづくり 泉ガーデンの誕生 六本木一丁目西地区 第一種市街地再開発事業」(株式会社日建設計)
<http://www.urca.or.jp/chousa/kikanshi/101roppongi.pdf>

「SPACE MODULATOR REPORT - 4 泉ガーデンタワー 天に向かって輝くタワー」(日本板硝子株式会社) <http://glass-catalog.jp/pdf/spm4.pdf>
このページに掲載されている古い写真について／写真提供：住友史料館(上段左及び中)、東京都(上段右)、港区立港郷土資料館(下段中及び右)

旧鍋島邸一移築され、今に伝わる近代和風建築①



平成 28 年(2016 年)：ロシア大使館

和館の1階には座敷や台所が配され、廊下と縁側が周囲をまわっている。

2階には上座敷にあたる24畳の大広間と12畳の次の間が配されており、両者を囲むように設けられたガラス戸の入った縁側には、腰高の高欄手すりが付されている。

2階の大広間と次の間は天井が高く、飯倉狸穴町時代、鍋島家では畳に絨毯を敷き、椅子とテーブルを置いて、和室でありながら洋風の接客をしていたと伝えられる。敷地は高台にあたり、当時、2階からは東京湾まで見渡せるほど見晴らしが良かったという。

明治から昭和の初期にかけて、現在、ロシア大使館の建つ地に、旧肥前国蓮池藩鍋島家の屋敷が所在していた。

10代当主・直柔(子爵・貴族院議員)が飯倉狸穴町(現麻布台二丁目)に屋敷を構えたのは明治維新後のことで、明治37年(1904年)には、息子・直和の結婚にあたり、敷地内に新たに2階建ての和館を建てた。大正12年(1923年)9月1日、関東大震災が発生し数多の家屋敷が被災するなか、鍋島家の建物は大きな被害を免れたという。

飯倉狸穴町の土地がソビエト大使館(当時)に売却されたのは震災から5年後、昭和3年(1928年)のことで、それに先立つ昭和2年(1927年)、和館は北多摩郡千歳村大字烏山(現世田谷区北烏山五丁目)の妙壽寺に移築された。

〈*移築から現在までの経緯はp.09を参照〉



昭和4年(1929年)：妙壽寺への移築から2年後の和館手前の平屋建て部分は移築の際に足されたもの



平成 28 年(2016 年)：
飯倉交差点から高台のロシア大使館を望む



資料：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』
東京通信局「東京市麻布区図」から編成[大正13年(1924年)]



かつては東京湾を望むことができたという高台。区画に大きなちがいはないが、ビルが建ち並ぶ現在、その環境は大きく変わっている。

旧鍋島邸一移築され、今に伝わる近代和風建築②



平成 28 年(2016 年)：旧鍋島邸・妙壽寺客殿全景
手前の平屋建て部分は移築の際に足されたもの

鍋島家から和館を譲り受け、昭和 2 年(1927 年)に移築した妙壽寺は、関東大震災当時、深川猿江町(現江東区猿江)に所在。一帯は甚大な被害を受け、妙壽寺は本堂をはじめすべてのお堂を焼失。烏山の地に移転し再建にとりかかったのは、震災の年の 12 月であったと伝えられている。当初、和館は庫裡として移築されたが、本堂の役割も果たすなど、再建の第一歩を築いた建物であった。その後、東京大空襲の戦火をもくぐりぬけた建物は、長らく庫裡として使われたのち、平成 7 年(1995 年)、庫裡を別棟で新築して以後、今日まで客殿として使用されている。妙壽寺客殿は明治時代中期の和風建築の面影を残す貴重な建物として、平成 20 年(2008 年)、世田谷区指定有形文化財に指定された。

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



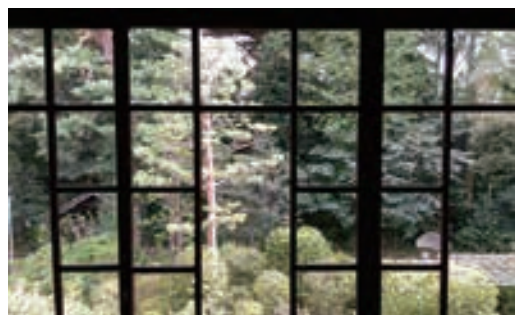
平成 28 年(2016 年)：南西から見た旧鍋島邸・妙壽寺客殿



平成 28 年(2016 年)：空と木々を映すガラス戸



平成 28 年(2016 年)：
2 階、高欄つきの縁側



平成 28 年(2016 年)：
2 階の縁側からガラス戸越しに見る木々の緑



平成 28 年(2016 年)：妙壽寺山門

※「妙壽寺客殿」は通常非公開です。

参考文献：『妙壽寺客殿—旧鍋島邸について』（法華宗妙壽寺）
『せたがやの文化財 No.021』（世田谷区教育委員会事務局）

東京府立第三高等女学校と仰光寮①

現在の六本木六丁目(旧麻布日ヶ窪)、区立六本木中学校のある場所には、かつて東京府立第三高等女学校(府立第三高女)があった。同校は現在の東京都立駒場高等学校の前身であり、同地の歴史を探ってみた。

「東京府立第三高等女学校」

府立第三高女は、明治34年(1901年)に創立され、翌35年(1902年)4月より東鳥居坂町東洋英和學校校舎の一部を間借りして授業を開始した。同年8月に日ヶ窪に校舎が一部落成・移転し、9月には授業を開始した。



明治35年(1902年)：府立第三高女 麻布日ヶ窪校舎
『東京都立駒場高等学校60周年』より



昭和57年(1982年)：港区立城南中学校(後の港区立六本木中学校)



平成29年(2017年)：港区立六本木中学校



参考文献・参考サイト：『港区教育史』上巻 (東京都港区教育委員会編集発行) 昭和62年2月28日
『山路を越えて』(創英社、嶋田美津子著) 平成4年2月15日
「東京都立駒場高等学校」沿革
http://www.komaba-h.metro.tokyo.jp/site/zen/entry_0000003.html
「財団法人 駒場松桜会」仰光寮 <http://www.komaba.or.jp/gyokoryo.html>
このページに掲載されている古い写真について／写真提供：港区立港郷土資料館



平成 29 年(2017 年)：仰光寮

「府立第三高女の思い出」

嶋田美津子さんは昭和 7 年(1932 年)、府立第三高女へと進学し、赤坂桜町の自宅から 5 年間通った。その思い出が、著書『山路を越えて』に書かれている。

-- 日ヶ窪の第三高女の敷地は変化に富んでいて、正門、テニスコート、運動場と三段になり、ことに上の運動場には道灌山といって、緑の樹木におおわれた築山風の山があった。昔の古墳だそうである。

校庭のあちらこちらには桜があり、四月上旬花ざかりの頃、全校によるお花見があり、昼食後和泉屋の餅菓子が配られた。ことに、入学最初のお花見など春爛漫の校庭で餅菓子をいただきながら、夢心地であった。



嶋田美津子さん：
府立第三高女の制服姿、
胸には校章もつけている。

『山路を越えて』
(創英社、嶋田美津子著)より

「仰光寮」

「仰光寮」は、香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定された大正 7 年(1918 年)に、その教育の場として久遯宮家邸内に御学問所として建てられ、「御花御殿」と呼ばれていた。時を経て、昭和 8 年(1933 年)、当時麻布にあった府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられた。

昭和 20 年(1945 年)の空襲で校舎は全焼したが、教員や生徒たちの防火活動により仰光寮は体育館と共に延焼を免れた。翌 21 年(1946 年)、同校は目黒区大橋の旧兵舎に移転されたが、仰光寮は麻布に残り続け、昭和 26 年(1951 年)に同窓会の募金活動により、目黒へ移築された。

「御花御殿」として建てられてから 100 年を目前とした現在も都立駒場高校の同窓会によって大切に、保存されている。

府立第三高等女学校及び仰光寮に関する略年譜

明治 34 年(1901 年)	12 月 12 日	○創立
明治 35 年(1902 年)	4 月 24 日	○開校(東鳥居坂町東洋英和學校校舎の一部を借りて授業開始) ○1 年 3 クラス、2、3 年 2 クラス 計 280 名
	8 月 28 日	○校舎一部落成し、日ヶ窪校舎へ移る
	9 月	○本校舎にて授業開始
明治 36 年(1903 年)	10 月 30 日	○開校式
明治 38 年(1905 年)	3 月	○第 1 回卒業式(卒業者 65 名)
大正 7 年(1918 年)		●香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定。 ●麴町 1 番町の久遯宮邸内に「御花御殿」が建てられる(後の「仰光寮」)。
大正 8 年(1919 年)		●久遯宮家と共に御花御殿が渋谷区広尾 4 丁目に移転
昭和 8 年(1933 年)		●御花御殿が府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられる。
昭和 20 年(1945 年)		○空襲で校舎が全焼。 ○仰光寮及び体育館は延焼を免れる。
昭和 21 年(1946 年)	9 月	○目黒区大橋の駒場へ移転
昭和 25 年(1950 年)		○東京都立駒場高等学校と校名変更
昭和 26 年(1951 年)	11 月 11 日	●都立駒場高校へ移築
		○府立第三高等女学校に関する事項 ●仰光寮に関する事項

参考文献・参考サイト：『港区教育史』上巻 (東京都港区教育委員会編集発行) 昭和 62 年 2 月 28 日、『山路を越えて』(創英社、嶋田美津子著) 平成 4 年 2 月 15 日
「東京都立駒場高等学校」沿革 http://www.komaba-h.metro.tokyo.jp/site/zen/entry_0000003.html
「財団法人 駒場松桜会」仰光寮 <http://www.komaba.or.jp/gyokoryo.html>

旧飯倉小学校（校舎）



明治 27 年頃(1894 年頃)：最初の校舎(森元町)



昭和 3 年(1928 年)：
改築された校舎(中之橋付近)



昭和 14 年頃(1939 年頃)：
中之橋から見た校舎



昭和 33 年頃(1958 年頃)：旧飯倉小学校 80 周年記念 講堂完成



昭和 33 年頃(1958 年頃)：
旧飯倉小学校正門(土器坂側)



昭和 41 年頃(1966 年頃)：旧飯倉小学校校舎全景 プール完成後



参考資料：飯倉小学校開校百年『記念誌いぐら』

このページに掲載されている写真について／写真提供：旧飯倉小学校メモリアルスペース



今年度、旧飯倉小学校メモリアルスペースさまから、多くの写真をご提供いただきました。その写真の一部をご紹介します。

このページに掲載されている写真について／写真提供：旧飯倉小学校メモリアルスペース

麻布にあった女学校(香蘭女学校)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



創立当時の校舎

永坂時代の校舎

東京府麻布区永坂町1番地の島津忠亮子爵邸の一部を借り受けて明治21年(1888年)3月校舎落成、4月開校、修業年限4年、当初の生徒数7名、7月には16名となった。

明治23年(1890年)、予科(2年)を置いたのにつき、その9月には香蘭女子小学校を付設、さらに神学部・手芸部も付設し、明治36年(1903年)の学則変更によって予科2年・本科6年と定められた。

明治43年(1910年)には高等科を設け、生徒数100名を少し上回るまでに発展したが、同年11月16日失火による火災によって、36室を焼失した。しかし、存続を望む声が大きく、内外の人々の協力により再建されることになった。



当時の校門



永坂校舎にあった礼拝堂



当時の白金三光町の新校舎

再建された白金三光町の新校舎

芝区白金三光町360番地、山路將軍邸跡の2500坪余の土地に新校舎完成、大正元年(1912年)9月19日、落成

※現在の香蘭女学校 中学校・高等学校は、品川区旗の台六丁目にあります。



当時、香蘭女学校があった場所は、現在のブリジストン美術館分室付近



平成27年(2015年)：現在の香蘭女学校

このページに掲載されている古い写真の提供及び参考資料：香蘭女学校『香蘭女学校100年史』



昭和 30 年代頃(1955 ~ 1964 年頃)：古川橋 小川書店



昭和 30 年代頃(1955 ~ 1964 年頃)：古川橋 小川書店



平成 28 年(2016 年)：古川橋交差点付近



昭和 30 年代頃(1955 ~ 1964 年頃)：小川書店の店頭

地域情報紙「ザ・AZABU」の取材に関連して、小川書店さまより古い写真の提供を受けた。昭和 30 年代・40 年代から参考書や教科書ガイドが充実していて、中学生の頃から新学期になると、お金を握りしめ、何度も自転車を飛ばして買いにいった。



このページに掲載されている古い写真について／写真提供：小川頼之氏(小川書店)

六本木一丁目(谷町 JCT)周辺

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和 42 年(1967 年)：谷町 JCT 建設中

建設中の霞ヶ関ビル、現在建て替え中のホテルオークラ本館、以前の霊南坂教会の
のどがった三角屋根も見える。



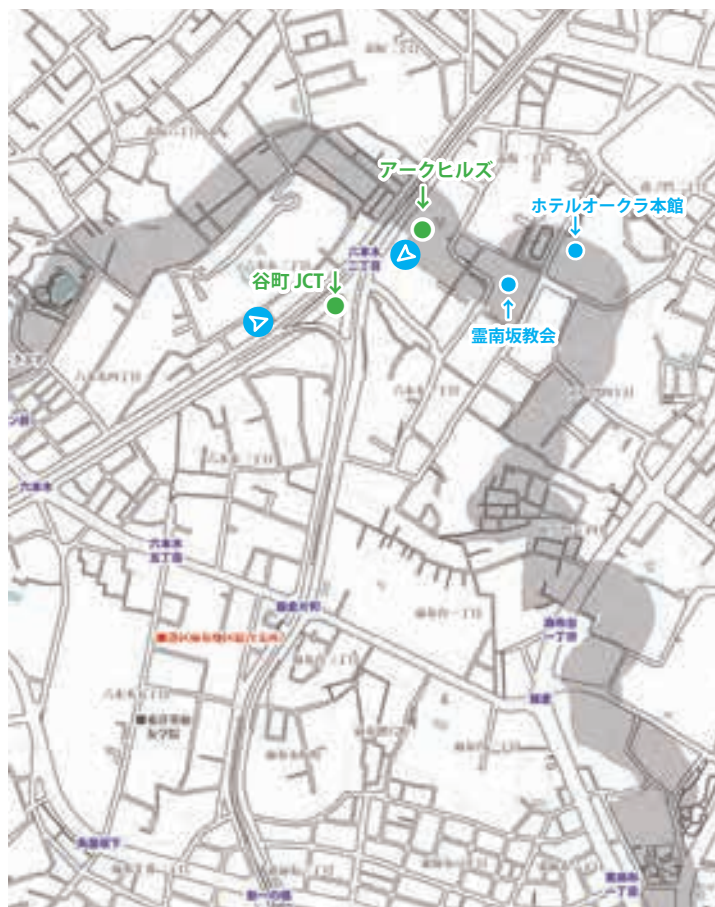
昭和 63 年(1988 年)：アーケヒルズ(空撮)



昭和 61 年(1986 年)：谷町 JCT 付近



昭和 63 年(1988 年)：アーケヒルズ(空撮)



このページに掲載されている写真について／写真提供：東京都



昭和38年(1963年)：東京タワー（空撮）



昭和39年(1964年)：東京タワーからの風景(赤羽橋方面)



平成26年(2014年)：東京タワーからの風景(赤羽橋方面)



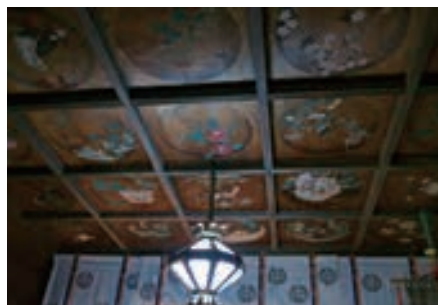
平成5年(1993年)：東京タワー（空撮）



天井画(久國神社)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



久國神社

六本木二丁目 1-16 にある神社。創建された年月は不詳。皇居内の旧千代田村紅葉にあったが、太田道灌の江戸城築城の際、寛正 6 年(1465 年)に鎮守として、溜池に遷された。その後、道灌より栗田口久國(鎌倉時代の名刀士)作の刀を寄進されたといわれ、久國稻荷神社と称するようになった。永禄 3 年(1560 年)、その地が公用に属したので、寛保元年(1741 年)に現在地に遷座し、昭和 2 年(1927 年)10 月 25 日に改称されて、久國神社となった。

久國神社は、明治 7 年(1874 年)の火災、昭和 20 年(1945 年)の空襲により被災した。現在の社殿は、昭和 28 年(1953 年)に再建されたものである。再建時に描かれた 50 枚の天井画は、今も鮮明である。

祭神は、倉稻魂命(うがのみたまのみこと)、穀物の神様である。境内には、猿田彦神社もある。社宝の刀は、現存している。

港七福神では、久國神社は布袋様である。

※社宝の「刀」は、非公開です。

参考文献：『久國神社由緒記』久國神社
このページに掲載されている写真について／写真撮影：平成 28 年(2016 年)

柿 (久國神社)



麻布未来写真館ではメンバーで年に数回テーマを決めてまち歩きを実施している。今回は、麻布と赤坂の境界をめぐる中、途中でこちらの神社に伺った。たまたま神主さんご一家が柿取りをされていた。麻布つながりで、様々なお話を伺い、最後にはとてもおいしい柿をいただき、再会を約束した。

戦災で焼けた社殿を再興された時に、有名画家(浮世絵)に天井画を依頼した時のご苦労や、大切に維持されている様子も伺いながら、色鮮やかな天井画の写真を撮影させていただいた。



このページに掲載されている写真について／写真撮影：平成 28 年(2016 年)



六本木時代のフィンランド大使館の貴重な写真(上3点)



フィンランド大使とフィンたん

人権とは？というドイツ大使館からの呼びかけに日本語で回答されたもの。12月10日は世界人権デー！ ユッカ・シウコサリ駐日大使とフィンたんのメッセージは人権とは「多様性+寛容=人権」。

今年でフィンランドは独立100周年。

こちらの公式ロゴと合言葉「yhdessä/一緒に / together」の下に、世界中でたくさんの行事やイベントが開催されています。日本各地でも100周年を祝う様々な企画が予定されています。



フィンランド大使館 中庭の椎の木

南麻布にある現在の大使館の場所には、以前麻布プリンスホテルがあった。建物は1983年に南麻布に移転した当時に建てられ、現在も使用されている。

1983年以前、大使館は六本木にあり、その跡地は、六本木プリンスホテルを経て、現在再開発が進んでいる。

フィンランド大使館東京 www.finland.or.jp



日本初のフィンランドタンゴの交流会も2016年10月港区でスタート、麻布での開催も検討されているそうです。

※フィンランドタンゴの交流会は、港区民のフィンランド好きの方によるイベントです。フィンランド大使館のイベントではありません。

フィンランドの文化で頭に浮かぶのは？ ムーミン？ サウナ？「フライング・フィン」と呼ばれるレーシングドライバー、などなど、イメージする方も多いのではないのでしょうか？

フィンランドの音楽で頭に浮かぶのは？ クラシック音楽の巨匠、シベリウス？ フィンランドで活躍されているピアニストの館野泉、を思い浮かべる方も多いのでは？ でも、忘れてはいけないのが、現在も盛んな、フィンランドタンゴということはあまり知られていません(日本でもその昔、黒猫のタンゴ、という曲が流行りました)。

南米の長調(メジャー)の情熱的なタンゴが、フィンランドに紹介されたのは1910年代と言われています。その後、第二次世界大戦の辛い時代を経るなかで、短調(マイナー)の、ちょっと物悲しい雰囲気、愛や哀愁、自然を歌い上げる、独自のフィンランドタンゴが完成していきました。フィンランドの文化の一つとして取り込まれ、成立したフィンランドタンゴ、現在も歌い・踊り続けられ、地域の交流の重要な一部ともなっているようです。

このページに掲載されている写真について/写真提供：フィンランド大使館(パネル一番下、フィンランドタンゴの交流会の写真を除く)

麻布の緑の壁

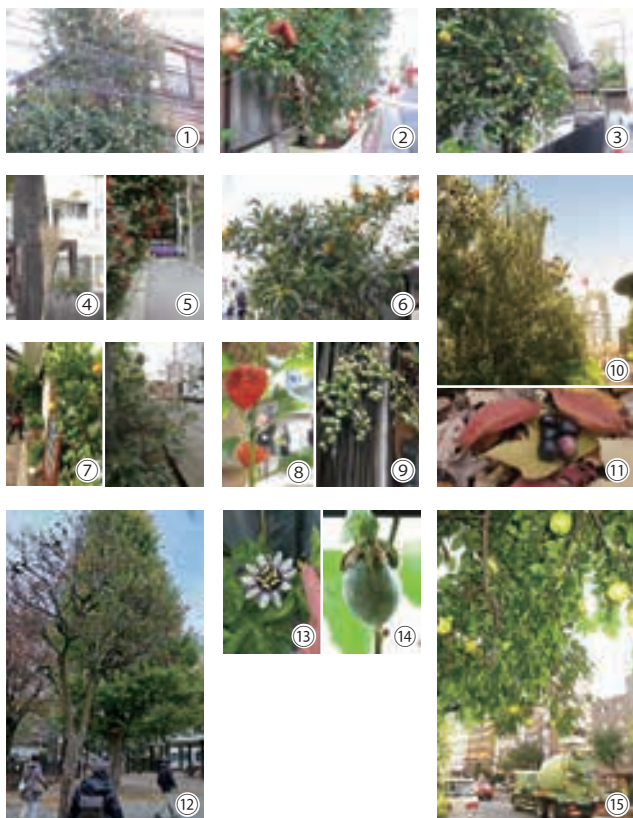


- ①：六本木七丁目
- ②③④：元麻布三丁目
(3枚とも同じ建物)
- ⑤：六本木七丁目
- ⑥：六本木五丁目
(麻布図書館の壁面緑化*)
- ⑦：六本木六丁目(六本木高校)
- ⑧：六本木五丁目(麻布保育園)
- ⑨：西麻布三丁目
- ⑩：西麻布一丁目
(EX シアター六本木)
- ⑪：西麻布二丁目
- ⑫：西麻布四丁目(2011年)
- ⑬：西麻布四丁目(2016年)
- ⑭：西麻布三丁目

* 壁面緑化は、文字通り建物などの壁を、草や木で緑化すること。多くの場合、垂直の壁に植物を植え付けるための装置が使われ、時々メンテナンス(手入れ)が行われる。屋上緑化と同様に、断熱性の向上、大気の浄化、輻射熱の軽減など、さまざまな効果があるようだ。また、屋上緑化に比べると人目に付きやすいので、美観の向上にも役立つ。麻布では少しずつ壁面緑化が増え、区の施設でも、近年あいついで採用されている。

撮影年：平成 28 年(2016 年)

麻布の実り



- ① カキ：六本木四丁目
- ② ザクロ：元麻布二丁目
- ③：麻布台一丁目
- ④：パティオ十番
- ⑤：西麻布三丁目
- ⑥ キンカン：西麻布一丁目
- ⑦ ミカン：西麻布三丁目
- ⑧ ホオズキ：久國神社
- ⑨ ブドウ：元麻布三丁目
- ⑩ オリーブ：六本木六丁目
六本木ヒルズ
- ⑪ オリーブ：六本木六丁目
六本木ヒルズ
- ⑫ カキ：西麻布三丁目
- ⑬ パッションフルーツ：
南麻布二丁目
- ⑭ パッションフルーツ：
南麻布二丁目
- ⑮ グレープフルーツ：
六本木五丁目

麻布はビルと高速道路がひしめくコンクリートジャングルだと思っている人も少なくないようだ。しかし、幹線道路から外れて脇道に入ると、まだまだ緑が残っている。秋、そうした街を歩いていると、あちこちで色づいた植物の実を見かける。カキや柑橘類にまじって、思わぬところでブドウやザクロ、オリーブなどを目にする。カキやブドウの熟した甘い実は、蝶と野鳥のお気に入りだ。

撮影年：平成 28 年(2016 年)

Ⅲ これまでの活動を振り返って

副座長 小山 浩

桜の開花、満開予想が気になる3月に毎年この「メンバーのことば」を書きます。

写真は昨年の本村公園と六本木ヒルズの桜です。今年も花見に行く予定です。

長い間、麻布未来写真館に参加しておりますが、とても楽しい会であり、優しいメンバーばかりですので、ご参加いただける方を募集中です。カメラが上手くないといけないとか、麻布に詳しくないといけない等の条件は何もありません。

今年により根性を入れて頑張るつもりです。

2016年
本村公園（右）
六本木ヒルズ（左）



メンバー 水野 禮子

麻布地区は歴史・文化・外国人も多く住み、大使館も多く、国際色豊かなまちです。

建築物もどんどん上に高く建ち、遠くまで空が見えていたものが空まで狭く感じられ残念ですが現実にはしかたがないのか、まだ続きそうです。外国人との交流も盛んで近代どのように変わっていく事でしょう。これからはまち歩きをして自然と歴史・知識等を写真に撮って未来につなげていきたいと思います。

メンバー 櫻井 綾



今年度も麻布地区の面的・歴史的広がりを深める事ができた一年となりました。この麻布未来写真館の活動のお陰で、自分の幅を広める事ができる嬉しさを噛みしめています。また、今年は壁面緑化が行われている建物の発見、知人からの紹介もあり東町小学校での「ゆるスポーツユナイテッド」への参加など、未来へ繋がっていきそうなものとの出会いも多く、それらの今後の発展が楽しみです。娘にとってはまだ町歩きが大変ではありますが、幼い頃にはこんな風景を見たなぁと記憶に残ってくれたらと願っています。今年も関係者の皆さまのご理解・ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

手が痛くなる寒さの中、鳥居坂下方向横断歩道にて。横断歩道を渡るために一旦坂を登る光景が麻布の他ではあまり見られないなど、そんな事を思いました。

(2017年1月撮影)

メンバー 岡崎 純子

まち歩きの次の分科会では、まち歩きに参加したメンバーの写真を、プロジェクターで映し出して、出席者全員で見せております。同じ時、同じ場所で撮っていても、各人の視点が異なっていて、それぞれの個性が表れており、毎回楽しい発見をしております。これからも、この素敵なメンバーの方々と共に、たくさんの麻布の光景を撮って、残していけたらと思っています。

また、新しいメンバーが参加されて、より充実した活動になることを望んでいます。

2016年11月
まち歩き 西麻布三丁目



III

これまでの活動を振り返って

メンバー 天羽 大器

本年度は皆さんの協力で達人倶楽部の時からやりたかった鍋島邸、東京府立第三高等女学校のパネルができた。

これは麻布未来写真館のネットワークの力である。このネットワークはすごいものがある。皆さんもこの事業に参加してみませんか？

来年度は肢体不自由教育発祥の地である東京市立光明学校(現都立光明特別支援学校)と善福寺とアメリカ公使館、赤羽接遇所、光林寺・中ノ橋とヒュースケン、三井家と外交施設についてパネルを作成したいと思っている。

昭和の香りが残っている住宅や風景が再開発でなくなる前に、本年買ったデジカメで、今の内に撮りたいと思う。



メンバー 鈴木 順二

麻布をあちこち歩くようになって気づいたことがあります。西麻布保育園、麻布図書館、麻布保育園など近年建てられた公共施設の外壁には、生きた植物が生えているのです。壁面緑化と呼ばれ、環境や景観に配慮した工夫だそうです。民間の建物ではこうした例が以前から見られます。港区も助成して緑化を奨励しているそうです。なかにはハートマークをあしらった微笑ましい緑の壁もあります。通りかかった人がスマホで撮影している姿を、幾度か見かけました。

生き物なので どの壁の姿も少しずつ変化しています。時折寄り道をして様子を見るのですが、知らないうちに花が咲いていたり、葉が大きく伸びたり、時には水分不足なのかしおれていたり… 今後新たに どのような緑の壁が現れるのか、とても楽しみです。



メンバー 椿 由美子

6月のまち歩きでは路傍に咲く紫陽花や立葵の可憐な姿が、11月のまち歩きでは、久國神社の境内に根を張る柿の木の豊かな実りや、黄金色の衣をまとった有栖川宮記念公園の銀杏の大木の姿が心に残っています。今年度は「旧鍋島邸」「住友家麻布別邸」と、建物にまつわるパネルを担当させていただきました。

旧鍋島邸が移築されている妙壽寺の山門をくぐったのは初秋のこと。豊かな緑と静寂につつまれてたたずむ旧鍋島邸、妙壽寺客殿の品格ある美しさに深い感動を覚えました。その後、資料を通して、非常な難工事を克服しての移築であったことを知り、関わった方々の並々ならぬ熱意や忍耐がしのばれ、胸を打たれました。

住友家麻布別邸時代の面影を求め、泉ガーデン一带の撮影に訪れたのは冬の最中でした。尾根道の歩道を緑地に沿って歩くと、かつての庭園の名残である石垣が、ところどころに顔をのぞかせています。その石垣の向こうの木々の根元、幾重にも重なる枯葉の絨毯の上を、カサコソと歩く野鳥の姿を見つけ、都会の小自然のぬくもりを感じたものです。

最後になりますが、麻布未来写真館の活動に多大なるご協力をいただいた関係者のみなさま、そして、パネル展にお運びくださったすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。



メンバー 横島 久子

今私の住む家の周りには、路地奥の狭い空間があちらこちらにありました。そこには温かいご近所の交流があり、子供が遊ぶ姿を見守る、お隣のおじさん、おばあさん、お母さんの姿がありました。そして楽しい世間話も聞こえてきました。このような風景はだんだん失われ、路地ではなくマンションが立ち並ぶ風景に変わりつつあります。

これが時代の流れというものでしょうか。今は懐かしい思い出の一コマとなりました。

メンバー 増子 照孔

私の住んでいるマンションは高台にあり、我善坊の上です。坂を下りると我善坊の通りです。この写真の家は我善坊にある家で玄関は我善坊側です。私のところからは三階で入り口がついています。冬の間は茎だけが家を覆い、桜が終わるところから緑の葉が出て見事に家全体を覆います。22年間見てきました素敵なお家だと思います。手入れも大変だと思います。

我善坊がなくなると聞いていますが、実感がありません。一軒家が多く、草花が通る人を癒します。

麻布未来写真館が区民の方々に少しでも何かお役に立てれば良いと考えております。



メンバー 入江 誠

歳月は人を待たず！と言う、あっという間に過ぎ去ってしまった1年でした。

振り返ってみると何をしていたのか、よく覚えていないが「けやき坂のイルミネーション」は残っていました。有栖川宮記念公園、狸橋付近(古川)の水鳥たちは、おなじみの鴨、鷺、鶉、そして、目白、四十雀、鶉、椋鳥、鳩、雀、鴉など、楽しませてくれた。

麻布地域は、まだまだ自然がいっぱい、それを求めて歩こう！と言い聞かせています。

再開発が進んで、変わりゆく自然環境がちょっと心配です。



けやき坂のイルミネーション

メンバー 吉川 一郎

麻布未来写真館のメンバーになりもう1年が過ぎてしまいました。メンバーの人々のお顔をやっと覚えましたが、まだお名前とお顔が一致しません。私は麻布に住みだしてまだ16年です。でも、集まりで長く住んでおられる方々のお話を聞き古い麻布の歴史を写真と見ながら聞き及ぶこととなり、とても麻布に古い歴史があることが判ります。まだまだ坂の名前と場所のイメージがありません。メンバーとならなかつたら、町に愛着を覚えることもなく、ただ単に時間だけが過ぎてしまっていた私を想像すると、このようにすばらしい麻布の町に申し訳なく思います。

麻布の町と通りの撮影をしながら由緒ある場所であることを教えてもらっています。町の写真撮影は難しく、思いを込めた写真が出来ていませんが、少しずつ撮影方法を考えながら少しでも後々に残せる写真に出来るように鍛錬しています。麻布未来写真館にメンバーになれずばらしい思い出が残せています。今年は美しい麻布の町の撮影をしていきます。



有栖川宮記念公園

メンバー 荒澤 経子

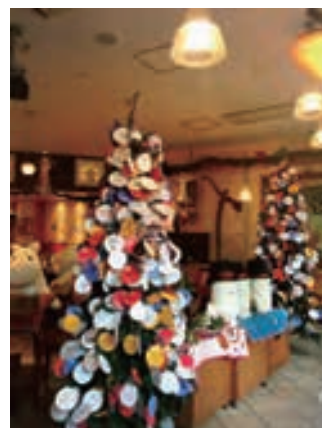
冬のある日の朝、六本木の大通りからヒルズ側の坂道を麻布十番方向に下った所で遠くの景色を遠くを見る目でカメラのシャッターをきりました。

こころとからだが開いたような不思議な一瞬でした。



メンバー 田岡 恵美

今後ともよろしくお願ひします。



座長 近藤 敏康



本年度は、「港区政 70 周年・総合支所制度 10 周年」記念イベントでのパネルディスカッションにご協力させていただくとともに、「麻布未来写真館」の写真も記念タイムカプセルに格納させていただきました。例年にも増して、ご参加の皆様、周囲の方々に支えていただき、感謝しております。新作パネル展の制作に対し、新たにフィンランド大使館、泉屋博古館、香蘭女学校、旧飯倉小学校メモリアルスペースをはじめ、多くの組織、個人の方々にご協力いただき、貴重な写真やエピソードのご提供を受けました。また、今年度より、東京大学大学院情報理工学研究科の谷川研究室のスマホやタブレットを用いた AR（拡張現実）の研究にご協力する事となり、最先端のデジタル技術と麻布未来写真館の協力による、今後の発展のスタート年となりました。

これからも「麻布未来写真館」事業へのご支援、ご指導、ご協力、古い写真や、古い麻布の音が入った録音やビデオ映像などのご提供など、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。また、新規メンバー募集しておりますので、お気軽にご参加いただけると幸いです。

III

これまでの活動を振り返って

講師 達川 清

NIGHT AND DAY

夜の六本木はなんだかウキウキしてくる。20代の頃には六本木スタジオで撮影が終わった後に PIT IN で夜な夜な、ケンジ、ポンタ、リュウイチ等々凄いメンバーのポートレートに音に酔いながらシャッターを切っていた。今も TONY ROMA'S のギターのネオンにはつい吸い寄せられる。のどかな昼下がり東麻布、よく行く写真ギャラリーに寄った帰り道、フッ！と出現する東京タワーにエレジーを感じる事がよくある。常に変化し続ける東京。よく歩いていないといつの間にか姿を変える。



まち歩きの様子



分科会活動記録（平成 28 年度）

平成 28 年	4 月 27 日	第 1 回分科会	（メンバー紹介、平成 28 年度の活動について）
	6 月 1 日	第 2 回分科会	（まち歩きについて）
	6 月 4 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影 A 日程）
	6 月 12 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影 B 日程）
	6 月 29 日	第 4 回分科会	（撮影結果、今後のスケジュール及び活動について）
	9 月 6 日	第 5 回分科会	（今後のスケジュール及びまち歩きについて）
	10 月 6 日	第 6 回分科会	（パネル作成及びまち歩きについて）
	11 月 6 日	第 7 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影 A 日程）
	11 月 23 日	第 7 回分科会	（まち歩き・第 2 回撮影 B 日程）
	12 月 8 日	第 8 回分科会	（撮影結果・今後のスケジュール及びパネル作成について）
平成 29 年	12 月 21 日	第 9 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
	1 月 25 日	第 10 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
	2 月 3 日	第 1 期パネル展	フジフィルム スクエア ミニギャラリー（～2/16）
	2 月 14 日	第 11 回分科会	パネル展について
	2 月 15 日	第 1 期パネル展	港区麻布地区総合支所 ロビー（～3/1）
	2 月 27 日	第 2 期パネル展	東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー（～3/24）
	3 月 3 日	第 2 期パネル展	麻布子ども中高生プラザ等複合施設 展示・読書コーナー（～3/29）
	3 月 7 日	第 12 回分科会	（活動を振り返って）

※これまで行ってきた都立中央図書館等での常設展示とあわせ、今年度は、港区政 70 周年・総合支所制度 10 周年を記念して、平成 29 年 1 月 7 日に開催された「つなげ！未来へ AZABU の魅力」で、パネルを展示しました。



パネルディスカッション



麻布区民センター地下 1 階ロビー

パネル展等の様子



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



フジフィルム スクエア ミニギャラリー

IV

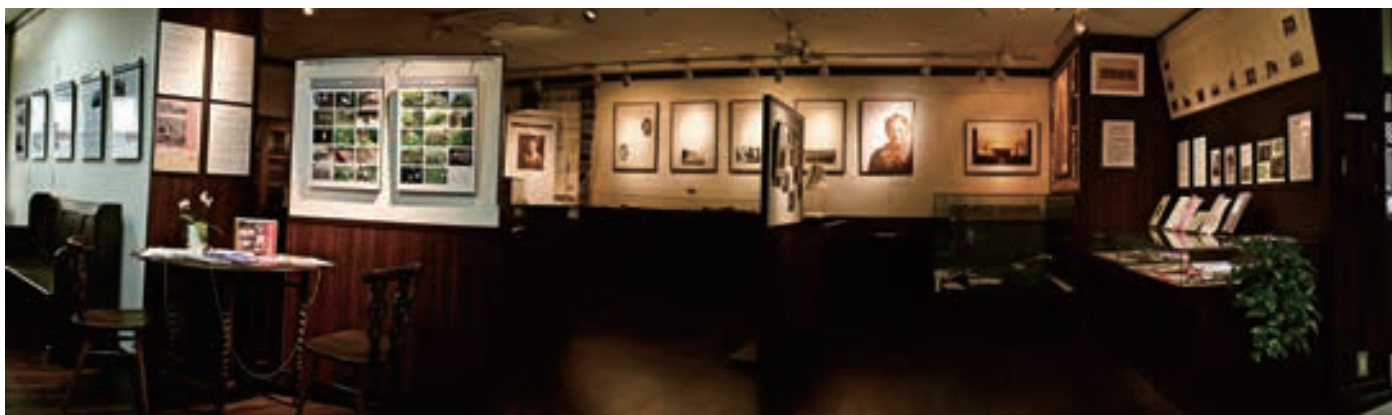
参考資料



港区麻布地区総合支所 ロビー



港区麻布地区総合支所 ロビー



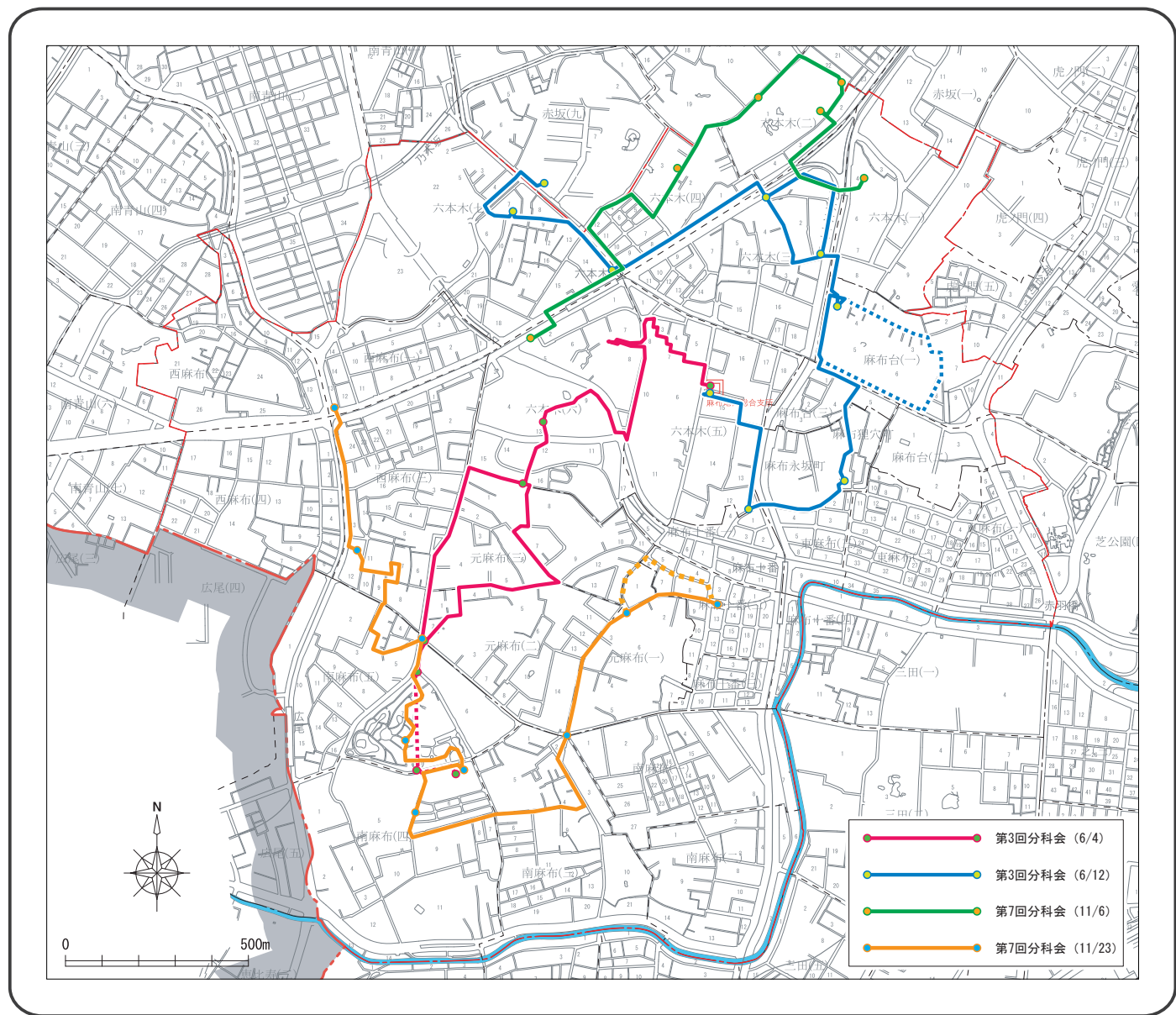
東洋英和女学院 学院資料・村岡花子文庫展示コーナー



麻布子ども中高生プラザ等複合施設

まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成28年度活動報告

刊行物発行番号
28282-1435

平成29年（2017年）3月発行

発行 港区麻布地区総合支所協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木5丁目16番45号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》：「増補 写された港区 三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～」、『日本の建築 [明治大正昭和] 5 商都のデザイン』（三省堂）、『妙壽寺客殿—旧鍋島邸について』（法華宗妙壽寺）、『港区教育史』上巻（東京都港区教育委員会編集発行）、飯倉小学校開校百年『記念誌いぐら』、『香蘭女学校 100 年史』 など

《古い写真等についての提供及び資料等》：住友史料館、東京都、港区立港郷土資料館、法華宗妙壽寺、旧飯倉小学校メモリアルスペース、香蘭女学校、小川頼之氏（小川書店）、久國神社、フィンランド大使館（順不同）

《技術・会場協力等》：達川清氏（フォトグラファー）、フジフィルム スクエア（富士フィルム株式会社）、学校法人東洋英和女学院、麻布子ども中高生プラザ等複合施設、都立中央図書館（順不同）

©禁無断転載複製

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。



区民とともに
港区政70周年

「麻布未来写真館」

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成28年度活動報告 港区麻布地区総合支所

これまで作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

港区公式ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

麻布未来写真館

検索 🔍



「麻布未来写真館」はこちら

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！
未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。
詳細につきましては、協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ

TEL : 03-5114-8812